

平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 県工学びのスタンダードやSPH事業を推進する中で、確かな学力の向上を図るとともに、教師の授業力向上に努める。	① 県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業にて育む資質・能力の育成を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	教材や内容がよく工夫された授業であると回答する生徒の割合で判断する。 A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満	最終評価(A) 生徒を対象とした授業アンケートを前後期(7・12月)に実施した。その結果によれば、「工夫されていると思う」の回答割合は前期29%、後期27%、「やや思う」の回答割合は前期63%、後期64%であり、肯定的な回答は前期92%、後期91%であった。 肯定的な回答が年間を通して90%を超えており、教材や内容が工夫された授業が実践されているものと判断する。本年は論理的思考力の育成を目的として全科目で実施した「県工TinkingTime」が、有効に機能したものと思量される。次年度は第一回答項目への回答比率の増を目指す。
	② 生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。	教務課 各教科	学校での補習や家庭での学習時間を1日1時間確保できているかどうかで判断する。 A ほとんど確保できた B 週に2～3回確保できた C 週に1回程度確保できた D ほとんど確保できなかった	最終評価(B) 生徒対象の学校評価アンケートの結果によれば、A:15%、B:32%、C:30%、D:23%であり、判定基準としたA判定70%を大きく下回った。しかし、授業評価アンケートの結果によれば、74%の生徒が「予習・復習・補習・課題等に取り組んでいる」と回答しており、家庭学習に取り組む姿勢は身に付きつつあるものと推察する。 今後、教務委員会を中心として、社会の要精に応えられるよう県工生に相応しい学習時間を目指し、各教科連携のもと授業内容や課題の工夫を行う。
	③ 教師個人及び各教科にて積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	日々の授業においてアクティブ・ラーニングを意識した授業を行っているかどうかで判断する。 A 十分意識している B ときどき意識している C あまり意識していない D ほとんど意識していない	最終評価(A) 教師を対象とした授業アンケート(7・12月実施)の結果によれば、A:前期33%、後期30%、B:前期63%、後期62%であり、判定基準としたA評価+B評価80%を上回った。 今年度アクティブ・ラーニングの啓発・普及を図るため、10月にファシリテート研修、12月にアクティブ・ラーニング研修を実施した。これにより、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習について、各自実践を意識できるレベルまで知識が高まったものと推察する。次年度は生徒の学ぶ力および社会性の涵養をも視野に入れたアクティブ・ラーニングの実践を目指す。
	④ 授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。	学習情報課	年間に5回以上利用した教師の比率で判断する。 A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満	最終評価(D) 教師対象の学校評価アンケートにおいて、利用回数5回以上:47%、3回以上5回未満:14%、1回以上3回未満:29%、未実施:9%であり、一人当たりの平均利用回数は3.5回であった。 今年度プロジェクターの設置台数は増えたが、各教室に常設されるには至っていない。普通教室で利用する際、パソコンやプロジェクターの移動・設置等に手間が伴う。今後、ICT機器の使いやすい環境を整備し、併せてICT機器活用およびコンテンツづくりに関する校内研修会を開催し、ICT機器の利活用の促進を図る。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・SPH事業を通じた新たな資質・能力の育成やアクティブ・ラーニングを意識した生徒主体の授業への取り組み等、指導者の授業改善に向けた意識の高さがうかがえる。また、生徒自身が実際に、「よく工夫された授業である」と感じているのは素晴らしい。ぜひ、今後もこれらの取組を継続的なものとし、目指す資質・能力や主体的な学びの態度などを身につけた生徒を育成していただきたい。 ・アクティブ・ラーニングの実践にはICT機器の活用や反転授業の導入が欠かせない。ICT機器を活用することにより、教材を視覚化、可視化、焦点化し、生徒の興味関心を高めるといったメリットがある。アクティブ・ラーニングの推進に合わせて、ICT機器の活用にも力を入れていただきたい。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・反転学習をあげるまでもなく、高校生にふさわしい学習内容やレベルを確保し、それらを確実に身に付けさせるには、それ相当の「授業外学習時間」は必要と考える。社会から求められる県工生に相応しい学力が身に付くよう、授業改善の一環として授業内容や課題の工夫を行う。 ・学習指導方針や学力スタンダードを規準に、より生徒主体の能動的な学習の展開を目指し、アクティブ・ラーニングの実践を深める。さらに、有効にアクティブ・ラーニングが機能するよう、ICT機器の活用や反転学習の導入を図る。これによって、「授業外学習時間」増の一助とする。ICT機器の活用に関しては、次年度はまず、コンテンツの組織的な作成と共有を図る。 			

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 県工人間力スタンダードを掲げ、校訓による規範意識やマナーの向上等、将来の職業人としての意識の高い生徒の育成を目指す。	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	<p>挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。</p> <p>A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満</p> <p>学校において基本的な生活習慣や躰に対する指導ができていると思うかどうかで判断する。</p> <p>A 十分指導がなされている B ほぼ指導がなされている C あまり指導がなされていない D 全く指導がなされていない</p>	<p>最終評価(B)</p> <p>生徒対象の学校評価アンケート(7・12月実施)の結果によれば、「取り組んでいる」+「やや取り組んでいる」の回答割合は、前期94%、後期93%であった。目標とした95%以上にあと少しのところで及ばなかった。</p> <p>挨拶はコミュニケーションの始めの一步であり、「人間力」の一つと捉える。次年度に向けて、学年・科・部活動と連携をとり、朝の登校指導をはじめ、いろいろな場面を通じて、全員が挨拶の重要性を認識し、自発的に挨拶ができるよう指導する。</p> <p>最終評価(A)</p> <p>保護者対象の学校評価アンケート(7・12月実施)の結果によれば、「取り組んでいる」+「やや取り組んでいる」の回答割合は、前期98%、後期96%であった。目標とするA評価+B評価80%以上を達成できた。</p> <p>今後も、遅刻指導や容儀指導、自転車の乗車マナー指導を徹底し、保護者や外部の方から見ても、県工の生徒は基本的な生活習慣や躰に対する指導がしっかりなされていると認識されるよう、学年・科・部活動が連携を取り、根気強く継続的な指導を行う。</p>
	周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	<p>周辺美化活動(除雪活動を含む)や各学科の特色を活かした地域貢献活動に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。</p> <p>A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p>	<p>最終評価(B)</p> <p>生徒対象の学校評価アンケート(12月実施)の結果によれば、「取り組んでみたいと思う」21%、「やや思う」54%であり、取り組みに肯定的な考えを持つ生徒の割合は75%であった。</p> <p>アンケートの取り方が若干異なるが、地域貢献活動の取り組みに肯定的な考えを持つ生徒の割合は前年度(68%)に比べ上昇している。ボランティア精神を持った生徒が4人のうち3人の割合で存在することになる。今後、この気持ちをさらに育てていくような活動場面の設定について検討し、A評価となるよう取り組みを行う。</p>
	② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	<p>違反指導件数の減少の割合を目標とする。</p> <p>A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増</p>	<p>最終評価(A)</p> <p>県警本部発表の自転車違反指導件数は、累計46件(12月末現在)で、昨年度同時期の85件に比べて39件、46%の大幅な減少をみた。これは、生徒の規範意識の向上ならびに県警による交通安全教室および生徒会や部活動と連携した自転車乗車マナー指導等の効果によるものと考えられる。</p> <p>次年度は、違反件数の更なる縮減に加え、自転車事故発生件数の減少に向け、校内各分掌および関係機関と連携し指導する。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ学校に来て、生徒はしっかりと挨拶をする。挨拶については現状に満足することなく、全員が立ち止まり、大きな声でさわやかな挨拶をする学校を目指して欲しい。 ・自転車乗車時のルール違反件数の減少は、評価できる。これは、交通ルールに限ってのマナー向上ではなく、学校として県工人間力スタンダードや校訓を掲げ、規範意識や職業意識を高める取組による成果と思う。 ・新聞報道等で、美化活動や除雪等の地域貢献の様子を目にする機会が多い。これからの世の中、若い世代に社会貢献や地域貢献等の社会意識を育むことは大切と考える。いろいろなことをきっかけとして取り組んでもらいたい。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校における人材育成の理念として校訓と県工人間力スタンダードを掲げ、教科指導、学校行事、特別活動等の教育活動の全体をとおして、職業人となるにふさわしい社会・対人関係力、特にモラルや規範意識の高揚を図る。 ・総務課、生徒会課を中心とした学校周辺美化活動や除雪ボランティアおよび各学科で学んだ知識や技術の一端を生かした「県工モノづくりワールド」等の充実を図る。 			

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 就職、進学ともに確かな進路実現を図り、それに向けた資格取得や検定等に意欲的に取り組み、専門分野の技能向上に努める。	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	最終評価(A) 1社目受験者179人中内定者174人、不合格者5人で、1社目受験で内定した割合は97%であった。また、年内に学校斡旋希望者の全ての生徒が就職内定となった。 以下の取り組みが効果的に働いたものと考えられる。 ・SPI模試、一般常識模試の導入 ・女子生徒に対する、広範な企業紹介 ・ホームルームを活用した、企業選択ガイダンスの実施 ・きめ細かな面接対策の実施 次年度以降、更なる改良・改善を加えながら、1社目受験で内定する割合を一層高めたい。
	② 専門分野の技能向上の一環として、課題研究の内容充実を図る。	工業7科	来場者の展示物(課題研究の内容)に対する評価の割合で判断する。 A とてもよかった B よかった C ふつう D あまりよくなかった	最終評価(A) 来場者を対象としてアンケートを実施した。その結果、展示物(課題研究の内容)について、「よかった」:91%、「普通」:7%、「よくなかった」:0%であり、基準としたA評価+B評価70%以上を大きく上回った。特に、工芸科、デザイン科の展示物(制作作品)はとても好評であった。 また、自由記述意見には、「レベルが高く驚いた」「コンセプトがしっかり書かれている」「生徒の説明が良かった」「受付の方がとても丁寧でした」「会場が良く見学しやすい」等の高評価のものが多かった。
	③ 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	最終評価(A) 全国工業校長協会ジュニアマイスター顕彰認定者は64名(特別表彰8名、ゴールド25名、シルバー31名)であり、昨年に比べ16名の増加であった。 これら以外に、今年度後期において、ジュニアマイスター顕彰認定の申請ポイントに達しているにもかかわらず、申請しなかった生徒が、ゴールドに6名、シルバーに11名いた。今後、資格取得指導と併せて、基準に達した生徒は必ず申請するよう、マイスター認定者の意義や価値を生徒にPRする機会をより一層設ける。
	④ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合は、大会出場の難易度で判断する。 A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	最終評価(A) 高校生ものづくりコンテスト (旋盤部門) 北信越大会 優勝(全国大会ベスト10) A (電気工事部門) 県大会 2位(北信越大会出場) D (電子回路組立部門) 県大会 優勝(北信越大会出場) D (化学分析部門) 北信越大会 優勝(全国大会ベスト10) A 県高校生アメリカンフットボールロボットコンテスト 優勝(全国大会出場) B 最終評価(A) 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2015 in 白山 優勝 A 全国高校生技術・アイデアコンテスト 佳作 B 高校生ファッションデザインコンテスト2015 グランプリ賞 A 最終評価(A) いしかわ県民陶芸展 文教会館理事長賞 C 小中高生によるデザイン画コンクール 県知事賞 C 高校生ファッションデザインコンテスト2015 グランプリ賞 A 国際コイン・デザイン・コンペティション2015 フィーチャ賞 A 明るい選挙啓発ポスター 中央審査 A
学校関係者評価委員会の評価	・1社目受験での就職内定率97%は素晴らしい。進路指導をはじめとした様々な教育活動における指導の積み重ねの成果と考える。県工の強みとして、PRしていただきたい。 ・ものづくりを学ぶ工業高校生としての3年間の学習の集大成を発表、展示する課題研究発表会「県工展」は、レベルが高く、ものづくりに対する真摯な姿勢を感じた。今後も各種コンテスト応募、資格取得等に励み、更なるものづくりをはじめとした専門教育の充実を願う。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・生徒一人ひとりの個性に応じた、適切できめ細かな進路指導を実施し、進学・就職ともに進路実現を図る。 ・SPH指定校として先端的な課題研究に組み込み、その内容および作品の完成度を高める。 ・各種資格取得やコンテスト入賞に向けて、各教科・学科が連携し、学校全体でサポートする体制を一層整える。			

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。 A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満 県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	最終評価(A) 部・同好会加入率は、1年生 95.3%、2年生 96.8%、3年生 93.7%、全体 95.1%で、A評価を達成した。(昨年：1年生 96.3%、2年生 97.2%、3年生 91.7%、全体 95.0%)。 ここ最近、高い加入率を維持している。年度当初の加入の呼びかけや、退部者への転部等の働きかけが功を奏していると思われる。次年度以降も積極的に部・同好会への加入を推進し、学校全体の活性化につなげていきたい。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 A 90%以上 B 75%～90%未満 C 60%～75%未満 D 60%未満	最終評価(A) 保護者対象の学校評価アンケート(12月実施)において、「行事が充実していると思う」62%、「やや思う」35%であり、肯定的な回答は97%であった。 学校行事に対する満足度は判定基準とした75%を超えており、概ね良好と判断する。しかし、数字に甘んずることなく、次年度においても、行事内容等の更なる改善が必要と思われる。 生徒の意見、要望を集約できるシステムを構築し、今後も内容の濃い有意義な学校行事の企画・運営を図ってきたい。
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	最終評価(B) う歯未処置者の受診完了率は、28.0%(92名/328名)に到達した。 今年度は、早い時期から歯科受診啓発の案内、個別指導を行ったことで、あと5名で30%を達成するところまで向上させることができた。次年度も早い時期からの指導を継続し、更なる受診完了率の向上を目指す。 受診完了率は、健康づくりへの意識や行動の指標と捉える。う歯未処置者の受診指導を通じて、個々の生徒のヘルスリテラシーやセルフケアの意識を高めたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が部活動に加入し、全国大会で上位入賞する部活動もあり、活発に活動している様子がうかがえる。成績の向上とともに、生徒の健全育成のため、心や身体をしっかり鍛えて欲しい。 保護者として多くの学校行事があり、先生方には感謝している。学校行事は、生徒にとって、積極性や協調性を育み、達成感や成就感を得る良い機会である。継続的な取組をお願いしたい。 歯は、健康長寿に密接な関係がある。将来にわたる健康づくり意識を涵養するためにも、歯科受診率向上に向けた更なる取組を期待する。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 部活動は、学校活性化にとって重要な取組であり、専門高校における活力の源の一つと捉える。専門高校の利点を生かし、今後加入率の向上はもとより、なお一層の成績向上を図る。 より多くの生徒が学校行事に対して満足感が持てるよう、生徒の意見や要望を集約し、生徒会を主体に企画・運営について常に改善を図る。 歯科治療のみならず、健康づくりへの意識高揚のため、保健日より等での情報提供を行う。特に、長期休業前には、集会等を通じ保健主事や養護教諭から直接受診について勧告する。 			